

③ ピンチの財政 大ピンチの教育

硬直した財政を立て直すには、まず財政が本当に厳しいということを実感することだ。口で言うだけではなくて、心からそう思うことが大事。大型事業は一度スタートするとダム工事のように引き返すことは難しくなる。だから今はスタートしてはいけないのだ。764億ものツケを未来の子ども達に残していい訳がない。

いじめ、不登校、学力低下、非行...学校を取り巻く状況は財政より先悪い。特に中学校がひどいということは新座市民の誰もが認めていることだろう。認めたくない人たちもいるだろうが、それは本当に新座の学校を愛していない人達だ。全国の教育委員会の「隠蔽体質」が問題になるのは、実態を隠すことで体面を保とうとするからだろう。子供たちより自分たちのことばかり考えているから、状態はよくなっていかないのだ。先生達も一緒。格好をつけないで、地域の人巻き込んで、みんなで学校をよくしていければいい。それこそが公立の学校だと僕は思う。新座の子供たちには力がある。そう信じている人はたくさんいる。そして新座には優秀な先生がいる。再生できない訳がない...

③ 出現率

いじめの件数がかかり怪しい数字なのに対して、不登校の数字には信憑性がある。17年度の小学校の不登校の件数は18人。中学校では169人。合計で187人。問題なのはその出現率(100人当たりの不登校児数)だ。小学校では新座市の出現率が0.21に対して、県の出現率が0.33。これは県の平均を下回っているということだ。それに対して、中学校では新座市が4.76なのに対して、県は3.13。県全体で考えると、中学校は小学校の9.48倍の不登校出現率だが、新座市は22.66倍の不登校児出現率ということになるのだ。要するに新座市の学校では...小学校は県平均と比べてもかなり「暮らしやすい」が中学校は小学校と比べて22倍以上不登校が多く、県の中学校の平均の倍以上「暮らしにくい環境にあるということになる。この差はいったい何だろう...市教委は本気で考えたことがあるのだろうか。12月議会で「この不登校の子供たちの中でいじめが原因の子ども達は何人ですか?」という僕の質問に、教育委員会は「把握していません」という答弁だった。勿論、中には友達からのいじめもあれば、先生からのいじめもあるのである。陵平の時もそうだったが、体罰だけがいじめなのではない。言葉によるいじめの方が、後々まで心を傷つけるものなのである。校長からのいじめの報告に、実態など見えてこないのは当たり前なのである。そういうことが分かる人もいるはずなのだがなあ...

一生 懸命

石神三丁目

12月2日に石神三丁目に引っ越しできました。野寺四丁目に10年。畑中三丁目に10年。そして石神三丁目。今回の引越しが、多分人生最後の引越しになると思います。畑中のみなさん、本当にお世話になりました。これからも何かありましたら、どんどん使って下さい。石神のみなさん、こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。道で会ったら「たかやん!」と声をかけてください。

石神三丁目のいいところは、公園や川が近いところです。82歳の母でも歩いて黒目川まで行けますし、道路の反対側には児童公園があります。そしてドラッグストアは目の前だし、スーパーも近くに 있습니다。前から利用している教え子のクリーニング屋さん、バイク屋さんもあります。いつも行っているお豆腐屋さん、八百屋さんも近いので、本当に便利です。五中・六中時代の教え子たちとは勿論、たくさんの人たちと今年も新座を語っていきたいと思っています。



大好きな神さんと一緒に

たかやんのプロフィール

1954年、東京都新宿区生まれ。西戸山小中学校から都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、朝日新聞の「今学校で!」を読み、教師になることを決意する。1977年新座五中に赴任。五中で10年、六中で10年、二中で1年、計21年間を理科(国語、数学、英語、体育)の教師として生きる。1998年、新座市新堀1丁目に「たかやん塾」を開校。2000年2月、市議会議員選挙に立候補。9768円で戦い、24票差で次点となる。2004年2月の選挙でも、お金をかけずに戦い127票で当選。小中学生と共に歩みながら「教育問題」「財政問題」を中心に発言を続けている。